

I. 評価項目について

本校の学校運営の方針と「学校評価を活かした専修学校の質保証・向上に向けて～専修学校における学校評価実践の手引き～」「専修学校における学校評価ガイドラインを基にして、評価の領域を11区分し、各領域ごとに評価項目を設けた。

2. 評価の方法について

教職員に対して、各評価項目を5段階で評価し、その評価点の平均値を算出して評価項目の評価点とする。また、各領域の評価点は、領域内の各評価項目の評価点の平均値とする。

（5：そう思う、4：ややそう思う、3：どちらでもない、2：あまり思わない、1：思わない）

大項目	評価項目	評価点	大項目
I 教育理念・目的・卒業生像	1 学校の理念・目的・卒業生像が教職員・学生・関係者に周知されている。	4.7	4.3
	2 自分は教育理念・教育目標・卒業生像を理解している。	4.0	
II 学校運営	3 組織体制と意思決定システムが適切に機能している 教職員間の連携が図られている	2.1	4.0
	4 入学試験は適切に実施されている	5.0	
III 教育活動	5 学則等諸規程の整備、見直しが適切に行われている。	4.1	3.9
	6 教育活動等に関する情報公開は適切に行われている。	4.8	
IV 学生指導等	7 教育理念、教育目的に沿った教育課程の見直しがされている。	3.7	4.1
	8 自分は教育課程を理解している。	3.9	
V 学修成果	9 教育課程を学生に周知している。	4.0	4.4
	10 教職員は本校の倫理規定を理解し遵守している	3.6	
VI 学生支援	11 学生の授業評価が行われている。	3.5	4.4
	12 看護師資格試験に関する指導計画が立案されている。	4.4	
VII 教育環境	13 成績評価・単位認定・卒業判定の基準は明確であり適切に認定している	4.5	3.6
	14 教育目的・目標に沿った授業ができる要件を備えた教員を確保している	4.0	
VIII 学生募集	15 自分は指導力育成なら資質向上のための研修等の参加や研究に取組んでいる	3.5	4.6
	16 学習困難者への支援体制が整備されている	4.0	
IX 財務	17 退学率の低減が図られている。	3.7	3.4
	18 学則・諸規程等を遵守し、また学生へ周知している	4.8	
X 法令等の遵守	19 進学・就職に係る支援体制がある	4.1	3.8
	20 看護師資格試験の合格率等から課題、問題点を把握し、その対策が行われている	4.4	
XI 社会貢献・地域貢献	21 卒業生の社会的な活躍及び評価を把握している	4.5	3.9
	22 奨学金制度等、経済的な支援について周知している	4.6	
VII 教育環境	23 健康診断が定期的に行われている。	4.7	4.4
	24 学生が心身について相談できる環境が整っている	4.3	
VIII 学生募集	25 保護者が相談できる体制がある	4.0	4.6
	26 学生の傷害・賠償・感染事故等の補償制度を周知している	4.4	
IX 財務	27 校舎の管理が、適切に行われている	3.6	3.6
	28 看護教育に必要な教材・教具が整備されている	4.1	
X 法令等の遵守	29 教育に必要なICT環境が整備されている	3.9	3.8
	30 図書室は学生に使いやすい環境に整備されている。	2.2	
XI 社会貢献・地域貢献	31 実習環境が整っている	4.1	3.9
	32 チューター制度により、学生間の交流・連携が図られている	3.4	
VII 教育環境	33 衛生面（手洗い・含嗽など）・感染防止対策が適切に行われている	4.2	3.6
	34 学校の防災対策が整備されている	3.6	
VIII 学生募集	35 高等学校等に定期的に学校説明会を実施している。	4.5	4.6
	36 オープンキャンパスを開催している	4.8	
IX 財務	37 HPに学校行事・資格取得・就職状況等の情報を適時載せている	4.5	3.4
	38 教職員が予算・決算等の財務状況を把握できるようにしている	3.6	
X 法令等の遵守	39 予算・収支計画に参画している	3.2	3.8
	40 法令・専修学校設置基準等が守られている	4.0	
XI 社会貢献・地域貢献	41 個人情報に關し、その保護のための対策がとられている	4.1	3.9
	42 自己評価の実施と問題点の改善を行っている	3.4	
XI 社会貢献・地域貢献	43 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っている	3.9	3.9

3. 実施結果及び課題

（1）自己評価の全体平均は4.0（前年4.2）であった。回答者は教職員11名、学校経験年数による職員構成は前年とほぼ同じであった。

（2）前年度の重点課題の結果

①IV-16 4.0（前年3.6）入学1～3か月前から学習習慣を身につけてもらうために入学ゼミを実施。入学直後の学力テストとその解き直しをしてもらい、補講を実施した。学生個々の学習環境・状況を把握し担任・チューター教員が学習サポートを実施した。

IV-17 3.7（前年3.2）令和5年度退学率13.9%、令和6年度8%に減少した。今後も教員は講義・実習を通して看護の魅力を伝え学生個々の強みを見いだし、その強みを伸ばしていくよう関わり、看護志望を維持し学習継続できるよう支援していく。

②V-20 4.4（前年4.8）看護師国家試験合格率（新卒者）はここ2年間90%台を保っている。入学時からの担任、チューター教員による個別指導と3年次実習終了後からの学生の集中力と国試ゼミが効を奏した結果と考える。

③VII-35、36、37 4.6（前年4, 6）高校訪問は8校、高校からの要請件数が半減し参加人数もピーク時（H31年）の1/3程度であった。学校見学希望者を隨時受け入れ対応、オープンキャンパスの実施、HP更新等PR活動を実施した。前年入学者15名から令和7年度入学は19名で微増となった。

（3）令和7年度の重点課題

①V 学習成果（国家試験合格率の維持・上昇）：個別支援とゼミの継続 領域担当教員に拠るゼミを計画、実施する。

②IV 学習支援（学習困難者への支援体制の整備）：前年度同様に担任・チューター教員による個別支援、学習計画表による学習状況を把握し対応していく。

③II 学校運営（組織体制と意思決定システムが適切に機能している、教職員の連携が図られている）：財政・経営について可能な範囲で情報共有できるよう職員会議等を開催する。検討事項は教職員間で十分な意見交換をし意思決定をしていく。各領域担当、役割が個別化しているため各自の業務を可視化し連携できるようにする。他

④重点課題の解決に向けて、また学生指導にあたり教員間の連携は必須である。指導上困っている事柄等を話し合い、共通理解して進めていくように、さらに教員の資質向上における学習会を計画し実施する。